

## 令和7年度（2025年度） 鴻池小学校 第2回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和7年 12月10日（水）18：00～19：00

2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室

3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・寺井副会長・北田委員・堤委員・吉田委員  
清水委員・増井委員・上田委員  
教職員 : 粟生校長先生・和田教頭先生  
その他 : 荒西コーディネーター

### 4. 学校長あいさつ

音楽会の約2週間前にインフルエンザが流行していました。ピーク時には2クラスが学級閉鎖になり、欠席連絡も通常であれば10～20件のところ、50件ほど入る日もありました。今は鴻池小学校でのインフルエンザの流行はかなり落ち着きましたので、このまま落ち着いて過ごせていけたらと思います。市内ではまだ学級閉鎖になっている学校もあり、世間的には流行しているので、引き続き手洗いうがいや、感染対策などを継続していきます。

### 5. 内容

#### (1) 学校の様子について

- 10／18に体育大会が開催された。予想より随分早く雨が降り、グラウンドの土がぬかるみ始めた頃には中止も検討したが、保護者の方たちの熱い応援と、教員たちが協力しながら迅速に対応してくださったおかげで、無事に最後までやり遂げることができた。身体が冷えた児童もいたが、休み明けに多数の生徒が欠席するということもなかったため、結果的に中止にせずよかったです。
- 11／22に音楽会が開催された。学級閉鎖が出た場合の対応を検討していたが、結果的に無事に開催でき、音楽会のアンケートの結果から保護者の方にも大変好評だったことがうかがえる。文化的な行事、芸術活動は子どもたちが非常に成長できるので、改めてこのような行事の大切さを実感した。
- 全学年、秋の遠足を終えたが、子どもたちは遠足を非常に楽しみにしていて、集合時間より大幅に早く登校する子どももいる。各学年、その子どもたちの発達段階に応じてさまざまな取り組みや工夫により、遠足や校外活動を充実させている。体育大会、音楽会、校外活動など文化的行事が目白押しの2学期で、その行事を通して鴻池小学校の子どもたちの良いところを感じることができた。

#### (2) 全国学力・学習状況調査の結果について

##### 【国語】

- 県の平均を少し下回り、全国平均を少し上回った。
- 個々の人物像を見ながら、物語全体を捉えることができていた。
- 数年前から国語を基幹にした研究をしている中で、特に読書に注力している。  
その取り組みの効果が、徐々に現れてきているように感じる。
- 漢字を正確に書いていない児童が多数見られる。

##### 【算数】

- 県、全国平均を少し下回った。
- 複数の資料を使って1つの答えを導く、というような問題は苦手傾向にある。

- ・昨年と同様、図形が苦手な児童が多い。

#### 【理科】

- ・県、全国平均を少し下回った。
- ・初めて理科が実施されたが、B 区分（生物や植物など）が得意な傾向にある。
- ・A 区分（化学や物理など）は苦手な傾向があるが、理科の授業が好きな子どもたちが多い。実生活に関連づけて、仕組みなどを理解してもらう取り組みも必要だと感じた。

＜主な質疑応答　●：委員　○：回答＞

- タブレット教育が進むと、“書く”機会が減ると思うが、そこをどのように考えているか。  
○タブレットに頼りすぎると、紙に書くことができなくなる可能性がある。タブレットはあくまでアイテムであり、授業の中心になってはいけないと感じるため、やはり基本はノートに書いて学習を進めていきたい。しかし、正確な漢字を書くことが苦手という点においては、少なからずタブレットの影響があると思う。タブレットを活用する中で、漢字学習をどのように身につけていくかが今後の課題である。

#### (3) 学校評価の中間報告について

- ・学校評価では、児童、教師、保護者的好意群が概ね高い数値となっている。しかし、家庭で読書をしているかについては、好意群が 33.8% と低い数値であった。習いごとや塾などで帰宅後も忙しい児童が多いため、自宅での読書時間を満足に確保できないことがうかがえる。その分、週に 1 時間にはなるが、ゆっくりと読書ができる図書の時間を確保している。
- ・子どもたちの自尊感情の項目については、全ての好意群が 90% を超える結果となった。前任の宮谷先生から自尊心を高める取り組みを続けてきているが、その効果が現れてきている。

＜主な質疑応答　●：委員　○：回答＞

- 現在、鴻池小学校では不登校の子どもはどれほどいるのか。  
○市教委が定義している、1 年で 30 日以上欠席する児童は、現在で約 20 人いる。しかし、ほとんどの子どもがずっと家にこもっているわけではなく、午前中だけ学校で過ごしたり、週に何回か遅刻して登校してくれるというケースが多い。教室に入りづらい子どもは不登校支援の方に支えて貰いながら、会議室をサポートルームとして利用し過ごしている。不登校支援の方には理想は最低でも週に 20 時間は来ていただきたいが、予算の問題でなかなか実現が難しいのが現状である。今より不登校支援の人事費を確保し、子どもたちの居場所を充実させたい。

#### 6. 閉会あいさつ（阪田会長より）

私は約 20 年前から鴻池小学校と関わりを持たせていただいておりますが、昔から鴻池小学校の子どもたちは素直で純朴な印象で、それは今でも変わりありません。小学校の先生方や、子どもたちにも非常に良いイメージがあります。

本日は不登校の話題も出ましたが、地域としてお手伝いできることがございましたら、是非お力になれたらと思います。今年度も残り 3 ヶ月となりましたが、今後もどうぞよろしくお願ひいたします。

以上